

「医学図書館」執筆規程 2022年3月改訂

I. 本誌の内容

本誌は特定非営利活動法人日本医学図書館協会機関誌として、医学およびその関連分野における情報活動・サービス等に関する記事と読者間のコミュニケーションを重視した定例記事やニュース記事で構成され、他誌に発表されていない原稿を和文または英文により掲載する。他誌へ投稿中の原稿は採用しない。

II. 原稿の書式

1. 投稿表紙

本誌のホームページ (<http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/kikanshi/dl.html>) からダウンロードして、所定事項を記入する。標題は、論旨を具体的に表現したものとする。また日本医学図書館協会の活動報告については、所属欄に協会の役職もしくは活動事業の担当名を併記する。

2. 本文

原則としてWord形式で作成する。

様式は、A4版設定に25字×22行の横書きで作成する。やむを得ず手書きの場合はA4サイズの横書き400字詰原稿用紙を用いる。

記事の長さは、図表を含めて刷り上がり8ページ（25字×22行のA4版用紙4枚が、実際の誌面の刷り上がり1ページに相当）以内とする。各記事の長さは後述のⅢを参照のこと。

各章の標題は、大項目をI. II. III. (ローマ数字) …, 中項目を1. 2. 3. (アラビア数字) …, 小項目は、1) 2) 3) …のように表記し、大項目の前後は1行空ける。中項目の前は1行空ける。英数字は半角を用いる。

また原稿には通しページを記入する。

3. 英文抄録およびキーワード (英語)

原則としてWord形式で、本文とは別ファイルで作成する。

論文・事例報告には必ず英文抄録とキーワードを付与する。

特集記事は、内容によって作成を依頼する場合がある。また、オピニオン、レビュー、解説、特集、オン・ザ・スポットの英文抄録およびキーワードは任意とする。

英文抄録は200語程度（60字×17行程度が目安）で作成し、キーワードはMeSH等を参考にして5個以内で付与し、英文標題も明記する。抄録は一人称の使用は避け、第三者抄録のスタイルとする。英文標題と抄録は、編集委員会が外部委託により校正をする。ただし、投稿前に英文校正済みの場合は行わない。

4. 図表など

図表は簡潔に作成し、文中に挿入する箇所を指定する。生データを図表にしたものは避ける。原稿そのものから組版できるようにモノクロで作成し、Excel等の図表作成ソフトで作成した別ファイルをそのまま提出する（PowerPoint等の貼り付け画像は用いない）。

他の文献等から図表などを引用・利用する場合の転載許可・掲載許可は著者がとる。写真を掲載する場合は肖像権やプライバシーにも十分に留意する。引用・利用の出典は文中あるいは引用文献・参考文献リストに明記する。作成に当たっては、「グラフ作成のポイント」（「医学図書館」ホームページ <http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/kikanshi/dl.html> 参照）を参考とされたい。

図表の標題、説明文はキャプションテンプレートに記入する。掲載時の図表の大きさと位置は編集委員会に一任する。また、カラー画像を希望する場合は、その費用は著者負担とする。

5. 参考文献

本文の末尾に記載すること。引用する参考文献は主要なものに限定し、一般に入手可能なものが望ましい。引用文献は引用順に一連番号をつけて配列し、引用箇所には肩付片括弧数字を記入する。

著者が6名以内の場合は全員の名前を記載し、それ以上の場合は最初の6名まで名前を記載し、後は（ほか）または（et al.）とする。欧文雑誌名の省略は、MEDLINEの省略名に準拠し、和文誌名は省略しない。

文献のページ表記は、以下の例のように省略して記載する。最終ページは開始ページと重複する部分は省略する。

ページ記載例 341-347. → 341-7.

同一書誌内からの引用・参考についても「同上」などの省略を避け、書誌事項の全てを記載する。
引用文献・参考文献の記載方法はNLM style guide for authors, editors, and publishersに準拠する。
(参考URL : <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK7256/>)

〈引用文献・参考文献の記載方法と例〉

電子文献の場合は、通常の引用方法に[媒体], URL, アクセス日を加える。

a. 逐次刊行物

著者. 論文名. 誌名. 出版年; 巻数(号数): 開始ページ - 最終ページ.

- 1) 城山泰彦. 雑誌購読料金の計量的分析: 掲載論文数, Impact Factor値, 所蔵館数などの分析を通して. 医学図書館. 2005;52(1):66-71.
- 2) 生出直子. Index Medicusに掲載されている日本国内雑誌の分析. 第20回医学図書館員セミナー論文集. 1993:123-37.
- 3) 特集1. 使いやすさとデザインを考える Webのユニバーサルデザインって何ですか?. Web Designing. 2002;2(5):40-63.
- 4) 菅修一. 森美術館「医学と芸術展」展観印象記. 医学図書館. 2010;57(1)(印刷中).
- 5) 大学, 情報管理に本腰: ISO取得の動き広がる. 読売新聞. 2006年11月3日;朝刊.
- 6) Guard JR, Brueggemann RF, Fant WK, Hutton JJ, Kues JR, Marine SA, et al. Integrated advanced information management systems: a twenty-year history at the University of Cincinnati. J Med Libr Assoc. 2004;92(2):171-8.
- 7) Sugita S, Horikoshi K, Suzuki M, Kataoka S, Hellman ES, Suzuki K. Linking service to open access repositories. [internet]. D-Lib Magazine. 2007;13(3-4). <http://www.dlib.org/dlib/march07/sugita/03sugita.html> [accessed 2010-02-26]

b. 単行本

著者. 章の見出し. 編者名. 書名. 版表示. (シリーズ名;シリーズ番号). 出版地: 出版者; 出版年.p. 開始ページ - 最終ページ.

- 1) 阿部信一, 奥出麻里. 図解PubMedの使い方: インターネットで医学文献を探す. 第3版. 東京:日本医学図書館協会;2006.
- 2) 黒澤節男. 図書館と著作権. (ケーススタディ著作権;第3集). 東京:著作権情報センター;2000.p.25-9.
- 3) Chambliss DF (浅野祐子訳). ケアの向こう側: 看護職が直面する道徳的・論理的矛盾. 東京:日本看護協会出版会;2002.
- 4) Brodman E. Research in health science libraries. In: Darling L, editor. Handbook of medical library practice. Vol.1. 4th ed. Chicago:Medical Library Association;1983.p.273-317.
- 5) 稲田祐二. 「いのち」の不思議さ. (科学選書;12). 東京:紀伊国屋書店;1992.p.94-7. [internet]. <http://www.netlibrary.com/AccessProduct.aspx?ProductId=190800&ReturnLabel=InkInOurCollection&ReturnPath=%2fListContent.aspx%3fcc%3dEbook> [accessed 2009-02-06]

c. 会議録, 学会抄録

著者. 論文名. 誌名: 学会開催日; 学会開催地: 出版者; 出版年.p. 開始ページ - 最終ページ.

- 1) 山崎茂明. 論文発表からみたES細胞ねつ造事件. 第23回医学情報サービス研究大会抄録集:2006年7月15-16日;千葉:医学情報サービス研究会;2006.p.15.

d. 非図書資料

書誌記述方法の詳細は、印刷媒体の引用方法を参照すること。

著者. 論題[媒体]. 書誌.

- 1) 日本医学図書館協会ビデオ制作委員会企画・監修. 医学研究のための文献の探し方[video]. (Library video series医学情報の達人;2). 東京:紀伊国屋書店;1994.

e. Webサイト

サイト名 [internet]. URL [accessed yyyy-mm-dd]

1) 日本医学図書館協会[internet]. <http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/index.html> [accessed 2010-02-26]

f. Webページ

著者. タイトル [internet]. URL [accessed yyyy-mm-dd]

1) Open Access Japan. Open Access Japanの創設にあたって[internet]. <http://www.openaccessjapan.com/about.html> [accessed 2010-02-26]

Ⅲ. 記事の長さ

原稿量の目安は、以下を参照のこと。なお「本文枚数」に参考文献の分量は含まない。

記事区分	本文枚数	図表枚数	英文標題	英文抄録
会員館紹介	3～5	2以内	必要	不要
広場	3～6	2以内	不要	不要
読者からの手紙	2～3	ナシ	不要	不要
レビュー	16～23	10以内	必要	任意
オピニオン	12～20	5以内	必要	任意
解説	12～20	5以内	必要	任意
特集	8～19	10以内	必要	任意
論文	12～19	10以内	必要	必要
事例報告	8～15	5以内	必要	必要
エッセイ	12～20	5以内	必要	不要
報告・JMLA活動報告	8～20	5以内	必要	不要
オン・ザ・スポット	3～12	1～2	必要	任意
プロダクト・レビュー	3～6	1～2	不要	不要
Q&A	3～6	1～2	不要	不要
レファレンス事例集	2～4	3以内	不要	不要
BookReviews	750字	1	不要	不要

Ⅳ. 校正

初校は著者校正とする。著者は依頼されたら、速やかに校正を行い返送する。この際、原稿にない大幅な修正や加筆はしない。

Ⅴ. 別刷（印刷版）

希望する場合は、投稿表紙の所定欄に記入する。また、その費用は著者負担とする。

別刷料金表（税別）

部数\頁数	1頁	2頁	4頁	6頁	8頁
別刷 50部		4頁以下：5,000円		5,500円	6,000円
100部		4頁以下：7,000円		7,500円	8,000円

製本 中とじ

用紙 表紙 上質紙110kg, 本文 上質紙70kg

梱包発送料 1点につき1,000円（税別）

上記は、国内発送の場合とし、海外発送の場合は、別途とする。

Ⅵ. 掲載原稿の取り扱い

掲載された記事の原稿は、原則として返却しない。ただし、写真については投稿時に著者の希望があれば後日返送する。

Ⅶ. 査読

編集委員会が中心となつて行う。外部査読員に審査を依頼し、審査結果をもとに著者による修正・加筆をした最終原稿の再提出を要求する場合がある。

また、記事区分の最終決定は編集委員が行う。

Ⅷ. 著作権

本誌に掲載する著作物の「著作権法第21条（複製権）から第26条の3（貸与権）で規定する権利」は日本医学図書館協会に譲渡されたものとする。著者自身のこれらの権利を拘束するものではないが、再利用される場合は、事前に本協会まで連絡されたい。なお電子的公開・転載は、本誌発行後、非営利サイトに限り全文の転載を認めることとし、事前に本協会へ申請書を提出する。ただし、機関リポジトリについては次号発行後の転載を認め、申請書の提出は不要とする。

Ⅸ. 投稿締切日の目安

投稿に際しては、以下の締切日を目安にする。

号	発行月	締切日
1号	3月	前年11月末日
2号	6月	同年2月末日
3号	9月	同年5月末日
4号	12月	同年8月末日

Ⅹ. 原稿提出の方法

原稿は電子メールに添付して送信するか、原稿を保存した電子メディアを郵送する。

なお原稿は以下のファイルで構成することとする。

- ・「投稿表紙」（Ⅱ-1）参照
- ・本文
原則としてWord形式で作成すること。
- ・図表（原則としてExcelで作成すること）
- ・英文抄録（必要に応じて）
200字程度、60字×17行程度を目安として作成すること。また5個以内でキーワードを付与すること。

原稿提出先・問合せ先

「医学図書館」編集委員長 浅野 泉

E-mail: JMLA-editorial-A@umin.ac.jp

ただし編集委員会からの依頼原稿は、それぞれの担当者へ提出するものとする。

- ・「医学図書館」ホームページ
<http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/index.html>
- ・「医学図書館」執筆規程2022年3月改訂
<http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/kikanshi/kitei.html>
- ・「医学図書館」執筆ガイド2022年版
<http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/kikanshi/guide.html>